

海外経験が大学生に与える影響の一考察

—横浜国立大学の学生を事例に—

1155099 諏訪雅彦

指導教員 藤掛洋子

要な側面にもプラスの影響が表れている様子が示さ

【背景と目的】本論文は「海外経験は大学生にどのような影響を与えるか」というリサーチ・クエスションの元、実際に海外経験をした大学生へのインタビューを元に海外経験から受ける影響を明確にすることを目的とする。まず筆者がこのリサーチ・クエスションを設定した動機は次の通りである。「大学を出たらきちんと就職しろ」筆者が両親から言われ続けてきた言葉であった。しかし、周りの友人たちは就職活動もせずに留学、青年海外協力隊、バックパッカーなど様々な形で海外に出たのである。何故海外に行くのか、海外には何があるのか、そんな疑問が私の中に存在していた。そこで海外経験が私たちにどんな影響を与えるのかに興味を湧いてきた。また、グローバル化が騒がれグローバル人材が必要と言われる昨今、海外経験によって果たして大学生はグローバル人材になることが出来るのだろうかについても研究していくことにする。最終的に本論文ではリサーチ・クエスションの結果を受けて、大学生の留学の必要性そしてグローバル人材の定義について考え、新しい定義を提案したい。

【方法】文献・資料・インターネットによる調査と、海外経験者14人への海外経験の影響に関するインタビュー実施(2014年)。

【結果及び考察】留学・バックパッカー・国際協力とも就職に有利に働くという結果が出た。留学に関しては、企業は海外留学経験を評価しないことはなく、評価する際、それなりの評価視点があり、海外留学と就職が関越的に結びつく機会があるということである。留学をただするだけではなく留学先で何をしたのかを明確にすることが重要になってくる。バックパッカーと国際協力に関しても同じことが言える。

また3つの海外経験は、全てにおいて大学生に大きな変化が現れることが分かった。留学に関しては語学力の向上はもちろんのこと留学によって異文化理解・活用力が高められ、主体性や実行力といった重

れた。また、バックパッカーを経験することで、日本の文化と異文化を相対的な枠組みの中でとらえることが出来るだけではなく、日本を客観視することで、異文化を正しく理解するとともに、日本の文化も見つめなおすことが出来ている。国際協力を経験した大学生は他の二つの海外経験での変化に加えて、「幸せ」の価値観の変化という新しい項目が出てきた。この価値観の変化は国際協力を行い、現地の人と同じ目線に立ち、物事を考えることで生まれるものであると考える。自分の人生設計への影響では、3つの経験ともに自分の将来が明確になったという意見が多かった。異文化の地へ行き自分を見つめ直すことで、自分のやりたいことがわかるようになったのであろう。海外経験をした大学生はグローバル人材になれるのかについて検証では、定義上の条件はどの経験も満たすという結果がでた。グローバル人材の3つの条件として①「社会人基礎力」、②「外国語でのコミュニケーション能力」③「異文化理解・活用力」と定義した。どの経験とも①と③は十分に満たしていることが分かった。②の外国語でのコミュニケーション能力に関しては個人差があり、留学経験が1番この能力が身に付くということである。

【結論】1)海外経験は大学生にとってとても有意義なものになるという結果になった。異文化に触れることで全ての面で自己成長に繋がるということが言える。2)海外経験による変化はグローバル人材の定義上の条件は満たすということが分かった。3)研究結果によりグローバル人材の定義を提案する。「異文化の差」の余りない国ではなく、大きく開いている国や地域に行き、自分の価値観や概念が覆り、その文化を知り、その人たちの目線に立って物事を考えること。グローバル化が騒がれている現在、立場の弱い国、力のない国を軽視することはできない。まずはその国の文化を実際に体験し、普段の生活での概念や価値観を壊し、同じ目線で向き合うことが必要である。